

権利擁護「障害者支援施設における虐待防止の取り組み」

社会福祉法人 信成会
ふるさとの森ひろば2 古蘭 真一

1 法人の紹介

社会福祉法人 信成会（所在地・鹿児島県日置市東市来町）

- ふるさと学園（平成6年4月開設）
 - ・ 施設入所支援
 - ・ 生活介護
 - ・ 短期入所、日中一時支援事業
 - ・ 障害者ホームヘルプ
 - ・ 相談支援事業
 - ・ 共同生活援助事業
- ふるさとのWA
 - ・ 就労継続支援B型（令和元年7月から開始）
- ふるさとの森
 - ・ 児童発達支援（おはな）
 - ・ 放課後等デイサービス（ひろば・ひろば2）

2 本事業所の紹介

- 放課後等デイサービス ふるさとの森ひろば2
 - ・ 平成29年4月開所。（「ひろば」は平成26年4月、「おはな」は平成27年4月に開所）
→ 「ひろば」は特別支援学校生が在籍、「ひろば2」は地域の小中学校の児童生徒が在籍。
利用児の増加に伴い、実態に合った活動が提供できるように2つの事業所に分かれる。
 - ・ 日置市、いちき串木野市の2市9校から利用児を受け入れていて、現在、小学1年生から、中学1年生まで34名が在籍。定員は1日10名。
 - ・ 地域の小中学校に在籍していて、主にコミュニケーション面に課題を持つ子供さんが利用。
 - ・ 制作活動、レクリエーション、クッキング、音楽タイムなどの活動を提供しながら、活動中や日常生活の各場面を通して課題の解決につながる力が身に付くことを心がけながら支援にあたっている。

3 本事業所（ふるさとの森）の権利擁護・虐待防止についての主な取り組み

- | |
|--|
| (1) チェックリストの記入・集計
(2) 権利擁護・虐待防止についての自主研修
(3) 「人権の日」の取り組み |
|--|

(1) チェックリストの記入（平成27年10月～）

- 平成27年10月にスタート
- 月に1回、全職員に対して実施
- 反省をもとに様式や実施方法の変更を重ねながら、現在も取り組みを続けている

☆ チェックリストを始めるようになったねらい（平成27年10月）

- 支援にあたる方向性の共通理解
 - ① 人権擁護という視点で支援について考える。
 - ② 日々の支援の中で当たり前になっていることも、他者から見て疑問に思われることはないかを振り返る。
 - ③ ①と②を通して、利用児にとってより良い支援とは何かを考え、自分たちの支援を定期的に見つめ直ししながら、1人1人の支援力の向上につなげていきたい。
- 人材育成
 - ・ 福祉、教育（療育）の経験が少ない職員に対して、仕事に対する基本的な姿勢、考え方を伝えやすくするため。

○ チェックリストの内容と実施方法について

①「職員セルフチェックリスト」(平成27年10月～平成29年7月)

職員セルフチェックリスト (一部抜粋)

《チェック項目》	チェック欄	
1、利用者への対応、受け答え、挨拶等は丁寧に言うよう日々、心がけている。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない
2、利用者の人格を尊重し、接し方や呼称に配慮している。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない
3、利用者への説明はわかりやすい言葉で丁寧に言い、威圧的な態度、命令口調にならないようにしている。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない
4、職務上知りえた利用者の個人情報については、慎重な取り扱いに留意している。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない
5、利用者の同意を事前を得ることなく、郵便物の開封、所持品の確認、見学者等の居室への立ち入り等を行うようにしている。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない
6、利用者の意見、訴えに対し、無視や否定的な態度をとらないようにしている。	<input type="checkbox"/>	できている
	<input type="checkbox"/>	できていない

実施方法	・森会議(月に1回行われる3事業所合同の職員会議)の中で時間を設定。
主な内容	①チェックリストを使った自己チェック。 ②「特に意識して取り組んでいく項目」や、「支援の中における成功体験」、「他者の言動で「良いなあ」と感じた取り組み」などの発表
支援へのつなげ方	・チェックリストのチェックした項目について会議の中で発表することで、支援の際に意識を高められるようにする。
取り組みの振り返り	・翌月の会議の中で個人の反省を発表して自分の取り組みについて振り返る。
課題	・入所施設の利用者を対象にしたチェックリストの様式のため、放課後等デイサービス利用児の実態に合わない項目あり。

②「虐待防止チェックリスト」(平成29年8月～平成30年11月)

虐待防止チェックリスト様式 (一部抜粋)

1. 通所者への体罰など	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者に対して殴る、蹴る、その他けがをさせるような行為を行ったことがある。				
②通所者に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある。				
③通所者に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的な欲求に関わる罰を与えたことがある。				
④通所者に対する他の職員の体罰を容認したことがある。				
2. 通所者への差別	よくある	時々ある	たまにある	ない
①通所者を子ども扱いするなど、その人の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある。				
②通所者の障害の程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある。				

様式の変更点	・通所施設のチェックリストを参考にしながら各項目の内容を一部変更。
実施方法	・変更なし。
主な内容	・大きな変更なし
支援へのつなげ方	・変更なし。
取り組みの振り返り	・変更なし。
課題	・成人の利用者に関する文言があり、放課後等デイサービスの利用児の実態に合わない項目がある。 ・全体の傾向の変化が分かりにくい。

③「人権擁護チェックリスト」(平成30年12月～令和元年5月)

人権擁護チェックリスト様式(一部抜粋)

1. 利用児への体罰など	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点・改善目標
①利用児に対して殴る、蹴る、その他怪我をさせるような行為を行ったことがある					
②利用児に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある					
③利用児に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある					
④利用児に対する他の職員の体罰を容認したことがある					
2. 利用児への差別	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点・改善目標
①利用児の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある					
②利用児の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある					

人権擁護チェックリスト集計表(平成31年2月分一部抜粋)

2. 利用児への差別	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点・改善目標
①利用児の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある	0	1	3	13	
②利用児の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある	0	0	0	17	
③障がいにより克服困難なことを、利用児の責めに帰すような発言をしたことがある	0	0	2	15	
④利用児の言葉や歩き方等の真似をしたことがある	0	0	1	16	
⑤利用児の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある	0	0	1	16	

様式の変更点	<ul style="list-style-type: none"> 各項目を放課後等デイサービスの利用児の実態に合う文言や内容に変更。 「理由、工夫している点、改善目標」について記述する欄を加える。 項目ごとに人数の集計をとり、全体の傾向がわかりやすくなるようにする
実施方法	<ul style="list-style-type: none"> 平成31年2月より月に1回、事業所ごとのミーティング時に、記入を行う時間を設定(基本的に第1週)。
主な内容	<ul style="list-style-type: none"> ミーティング時に自己チェックと感想の記入。
支援へのつなげ方	(平成31年2月～) <ul style="list-style-type: none"> 結果を集計し、各事業所の代表が集まって結果の分析と翌月の努力事項を検討。 ↓ <ul style="list-style-type: none"> 検討した内容を森会議で報告。各支援員が意識して支援にあたる。
取り組みの振り返り	<ul style="list-style-type: none"> チェックリストの記入時に個人で振り返る。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 月ごとにどのような変化があったのか分かりにくい。 個人が発表する時間がなくなった。

※ 集計結果を見る際に気を付けること

- 数値化は大事だが、数字だけを見て判断しない。
- 全て「ない」という結果が良いわけではない。
→ 「ある」にチェックがついている項目は改善、予防につなげることができる

④「人権擁護チェックリスト2」(令和元年6月～)

人権擁護チェックリスト (R1.6月～)

1. 利用児への体罰など	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点 ・改善目標	「良かった理由、課題に残ったこと、意識して取り組んでいること、などを具体的に1つ記入してください。」
①利用児に対して殴る、蹴る、その他怪我をさせるような行為を行ったことがある						
②利用児に対して、身体的拘束や長時間正座、直立等の肉体的苦痛を与えたことがある						
③利用児に対して、食事・おやつを抜くなどの人間の基本的欲求に関わる罰を与えたことがある						
④利用児に対する他の職員の体罰を容認したことがある						
2. 利用児への差別	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点 ・改善目標	「良かった理由、課題に残ったこと、意識して取り組んでいること、などを具体的に1つ記入してください。」
①利用児の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある						
②利用児の障がいの程度、状態、能力、性、年齢等で差別したことがある						
③障がいにより克服困難なことを、利用児の責めに帰すような発言をしたことがある						
④利用児の言葉や歩き方等の真似をしたことがある						
⑤利用児の行為を嘲笑したり、興味本位で接したことがある						
3. 利用児に対するプライバシーの侵害	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点 ・改善目標	「良かった理由、課題に残ったこと、意識して取り組んでいること、などを具体的に1つ記入してください。」
①職務上知り得た利用児個人の情報を他に漏らしたことがある						
②利用児の同意を得ることなく、所持品等を確認したことがある						
③a(男性職員が) 女児の衣類の着脱、排泄、生理等の支援をしたことがある						
③a(女性職員が) 男児の衣服の着脱、排泄等の支援をしたことがある						
④利用児や家族の了解を得ずに、本人の写真や制作した作品を展示したことがある						
4. 利用児の人格無視	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点 ・改善目標	「良かった理由、課題に残ったこと、意識して取り組んでいること、などを具体的に1つ記入してください。」
①利用児を呼び捨てやあだ名で呼んだことがある						
②利用児に対して、威圧的な態度や命令口調で話したことがある						
③利用児の訴えに対して、無視や拒否をするような行為をしたことがある						
④利用児を長時間待たせたり、放置したりしたことがある						
⑤担当専門医の指示によらず職員自らの判断で薬物を使用したことがある						
5. 利用児への強要制限	ある	時々ある	まれにある	ない	理由・工夫している点 ・改善目標	「良かった理由、課題に残ったこと、意識して取り組んでいること、などを具体的に1つ記入してください。」
①利用児に対して、わいせつな発言や行為をしたことがある						
②利用児に目的もなく嫌悪感を抱かせるような活動を強要したことがある						

※ある(週5)、時々ある(週3)、まれにある(月1~2)

年 月 日 ()

ふるさと森

事業所集計シート（ひろば「2. 利用児への差別 ①利用児の年齢に～」）

2. 利用児への差別

①利用児の年齢にふさわしくない接し方をしたことがある					
月	ある	時々	まれ	ない	理由・工夫している点・改善目標（空白はコメントなし）
2月	0	1	1	3	・「ちゃん」をつけて呼んだことがあったので「さん」づけで呼ぶようにしている ・意識している
3月	0	1	1	3	・年齢にふさわしくない伝え方をしないようにしているがふとした時に出てしまう。 ・実年齢としては幼い言い方をすることがあった。別な言葉での伝え方を考えが必要。
4月	0	1	2	2	・実年齢として接するように心がけているが精神年齢を見ながら接することがあった。 ・理解度にあった支援を心がけたい。 ・年齢ではなく理解度に応じて接するときもあるから。
5月	0	0	1	4	・コミュニケーションを取っている中でしそうなことがあるがしないように意識している。認知能力に合わせて接する（伝え方を変える）ことがある。
6月	0	1	1	2	・理解度に応じて変えている。 ・その利用児にあった伝え方を行ったため
7月	0	0	0	5	・言葉の理解力の面で年齢にそぐわないかもしれないが配慮するようにしている。知的年齢が低い利用児であってもかける言葉が幼くならないように
8月	0	0	1	4	・ある程度、年齢も考えて接していくように気を付けている。 ・認知力に応じて変える時があるから。

「2 利用児への差別」全体に関するコメント	
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・理解度に応じて接し方や伝え方を変えているが、つい理解度が高い利用児にも同様に接してしまうことがあった。 ・難しい、できない、ではなくて、どう支援すればできるのかを考えるようにしている。 ・自分もできない頃があったので、発言には気を付けている。 ・失敗した姿とかに関して、ほほえましいな、かわいいな、と思うことがあり、それを共有したい気持ちがあるので、④、⑤に当てはまらないように意識すべきだな、と思った。 ・友達同士のトラブル等、何故してはいけなかったを伝えるときには、より伝わりやすくするために真似をすることがあった。利用児に自ら気付いてもらえるようにとの思いで行っている。
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場にたって行動する事を児童にも促している。それなのに大人の私たちができていないのはおかしいので常に意識している。 ・意識して取り組んでいる ・利用児に接する時は、必ず相手を見て、相手の事をしっかり考えるようにした。 ・活動でのグループ分け等では、特性や身体的な事に配慮しつつ「1人だけ〇〇」のように特別な感を与えないように配慮した組み分けをしたい。 ・常に子供の発達年齢、生活年齢を意識して接するように心がけている。
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の人権を尊重するようにしている。 ・自分からの発信を待つためにあえて静観することはあるが、その際には距離感に気を付けている。（あまり近くに行き過ぎると発信できないし、近くだと支援として成り立たない） ・夏休みで利用児同士がトラブルになり、その原因となった行動や言動を真似し、気付きを促すことを行った。 ・支援の中でこちらの思いを強要することがないように気を付けるようにしている。 ・強い口調で攻めてしまうのではなく、言葉かけの仕方や伝え方を工夫している。

様式の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・様式の中に項目ごとにまとめて意見を記入する欄を追加し、必ず自分の反省や目標を記述欄に記入するようにする。 ・「事業所別集計シート」を作成、事業所の月ごとの変化を分かりやすくする。
実施方法	・変更なし。
主な内容	・変更なし。
支援へのつなげ方	・変更なし。
取り組みの振り返り	・変更なし。
課題	・項目ごとの記述欄への記入がなくなったため、無くしても良いのでは？

- チェックリストを行うようになってから感じられる職員の変化
 - ・ チェックリストの記入を行うことで、以前に比べ、支援の際の判断基準が分かりやすくなってきた（利用児への接し方や、何が虐待にあたるか、など）。
 - ・ 人権を意識するという気持ちが高まり、支援の場で配慮できているのかをその都度、考えるようになってきた。
 - ・ 子どもたちへ一呼吸おいてから言葉かけをするようになってきた。
 - ・ 利用児のことを考えた言葉かけや穏やかな言葉かけが増えてきた。
 - ・ 利用児の気持ちを汲み取って接することができてきた。
 - ・ 集団にあわせることを強要せず、個々を大事にした支援を心がけ、一人一人に合った支援を考えるようになった。
 - ・ 押しつけではなく、個人の意志を尊重した支援を心がけるようになってきた。
 - ・ 成功体験の感想コメントを読むことで、気づきの共有になる。

(2) 権利擁護・虐待防止の自主研修（平成31年2月～）

- 月に1回、森会議の中で実施（1回15分前後）
- チェックリストを記入していた時間を研修にあてる
- 権利擁護・虐待防止の意識が高められるように、各月のテーマに沿って事業所ごとに代表者が研修内容を検討
- 研修の準備は各事業所が月ごとに交代して行う
- 準備を含めて全員で取り組んでいくという考えから、最初から完璧を求めず、自分たちのできる範囲で準備を行い、少しずつ内容を充実させていけるようにする
- ※ 負担の大きくない中で取り組んでいくことも大事。負担を感じながらだと前向きな発想もなかなか出てこない。5分でもできる人権研修。たとえ5分ずつでも回数が重なれば、相当な時間になる、という考え方。

月	研修名	内 容	担当
2	・虐待防止、権利擁護研修の報告	・平成30年度虐待防止・権利擁護研修を受講した支援員が研修の内容を報告。	ひろば 2
3	・人権教室 （社会福祉施設等人権教室）	・鹿児島人権擁護委員協議会に講師依頼し、人権擁護委員を招いて、人権に関するDVD視聴と意見交換を行う。 ・意見交換で支援にあたる中で疑問に思っていることについての人権擁護委員の見解を話していただき、とても参考になった。	ひろば 2
4	・虐待防止マニュアルの読み合わせ ・虐待を発見した時の対応 ・虐待事例について検証 ・担当者からの資料配布	①平成30年度虐待防止・権利擁護研修を受講した支援員が研修の内容を参考にしながら実施。 全体で資料の読み合わせをする練習も兼ねる。 この後は「人権の日」に事業所ごとに実施することに決定。 ②万が一、本事業所内で虐待が疑われる事例を発見したときの動きについてフローチャートを作成し、流れを全員で確認。 ③県内で起きた児童虐待についての記事を読んで関係機関の対応を検証。 ④オレンジリボンマークについて資料提供。	ひろば 2
5	・アンガーマネジメントについて（概念）	・アンガーマネジメントについての参考文献を読みながら概念や具体例について全員で考える。 ・支援中における具体的な場面の対応方法については次の機会に行うことに。	ひろば

6	・事例研究	・実際の支援の場面で起きた出来事について、「振り返りシート」を使って説明を行い、前後の対応について考えを発表しあう。	おはな
7	・グループトーク	・チェックリストに出された様々な意見に対して個人の考えを出したり、聞いたりしあうことで、他事業所の様子を知り、自分の支援につなげられるようにする。	ひろば 2
8	・アンガーマネジメントについて（自己分析）	・セルフチェックによる自身のアンガーマネジメント診断を実施。 ・自分がどのタイプなのかを知り、怒りの傾向とその対応方法について学ぶ。	ひろば

(3) 「人権の日」の取り組み（令和元年5月～、事業所別に週1回実施）

人権について考え、自分たちの支援の在り方を定期的に振り返ったり、人権についての意識を高めていったりする時間にしていく目的として設定

- 週に1回、事業所ごとのミーティング時に各事業所の中で検討した内容を実施
- 取り組みを振り返り、どのような点を意識して取り組むべきかを考えやすいように、最初は1週間の中日にあたる水曜日に行うということでスタート
- 実施していく中で、ひろば2は送迎時間が比較的遅くから始まる火曜日の方が気持ちに余裕を持って取り組めるということで曜日を変更
- 事業所ごとの都合に合わせて実施する方法や内容を柔軟に変更していきながら、最適な方法を模索している段階
- 大きな負担にならない範囲で行うことを共通理解

（取り組みの内容例）

- ・事業所別集計シートの活用による日々の支援の振り返り
- ・虐待防止マニュアルの読み合わせ
- ・リフレーミングについて
- ・支援の中で迷った場面の検討
- ・努力点についての振り返り、発表
- ・同僚の良かった点の発表
- ・人権に関する時事問題について意見発表
- ・人権に関する動画視聴
- ・個人の努力点の設定、発表
- ・自分の取り組みの良かった点の発表

など

4 取り組みを続けていく中での課題

- 計画に沿った研修の実施
- 取り組みを支援に生かしていく工夫
- マンネリ化しないような新たな発想の導入
- 取り組みを利用児の人権教育につなげていく方法はないか
- 法人全体としての取り組み方法の検討

5 人権擁護について学び感じたこと

- 小さな積み重ね
- 虐待の芽の出ない土壌作り
- 同僚に対する人権意識
- 利用児の将来を考えた支援
- 考え、悩みながら進めていくことの大切さ